

第2回ゼロカーボン匠瑳推進協議会議事録

2022年5月11日

匠瑳市議会棟第3委員会室

<参加者>

しおさい電力（鶴澤）、FJTEC（松原、他2）、市民エネルギーちば（椿、宮下、東）
千葉銀行（永井）、商工会長、内山市議、ISEP（飯田、松原）、伊藤（企画課）

<報告事項>

1 この間の状況

① 市の進捗状況

- 計画策定ノウハウがないこと、計画するゼロカーボン施策を行うに当たって関係者のコンセンサスがとれるかがネックとなり足踏みしている状況。（伊藤）
- プロジェクトチームが立ち上がるまでは、企画課が調整・窓口になる。計画案づくりは環境生活課が担当予定。（伊藤）
- 市長は、市の費用面での負担を気にしている様子。（鶴澤）

② 他の団体、会社等への働きかけの状況

- 栄宮農組合・・・次回協議会から参加の意向
- エコ・フード・・・市が参加するならば検討したいとのこと

<協議事項>

1 第一回「脱炭素先行地域」（26ヶ所）の検討

① 事例の検討・・・資料を配布

② 評価委員会の総評・・・資料を配布

③ 秋田県・大潟村の申請・採択の経緯について・・・報告：ISEP

- 資料を基にISEPの飯田さんから説明、報告がされた。
 - ・先行地域に指定されると事務費として500万/年の助成金が出る。
 - ・補助金（3/4）を超える費用は事業者が負担するので、市庁舎や公共施設のZEB化等市の事業（工事）として行う以外は、市の負担はない。大潟村の場合も、市が公用車としてEV購入以外の持ち出しはない。
 - ・村と民間の共同出資で設立予定の電力会社の資本金は3000万程度を予定。国の補助金は全てここを通じて配分される。
 - ・個人住宅にソーラーと蓄電池を入れる場合、エリア以外であっても一体的に工事することで実質的に補助が可能。

2 申請のイメージ案について・・・前回の宿題

○時間の関係で議論はできてないので、各自で添付の資料3、4の検討をお願いします。

○意見等は、MLで流してください。

3 「匠瑳市の申請」に向けての取り組み

① 推進協議会としての申請案（申請書の骨格）の作成と市長への働きかけ

*待ちから攻めへが重要 ⇒推進協議会としてできることを進めて行く

○推進協議会としての素案をつくって、市への提案、市長への働きかけをしていく。

○先行地域としての事業を取り組んで行く場合、市の新たな負担が生じることはないこと、年間13億円（最大）、5年間で65億円（最大）の投資からの税収が見込めることなどを数値化して示すことが必要。

② 脱炭素社会と「先行地域」についての勉強会

○対象は、市議、市職員、企業・団体、関心のある市民等

○内容

・脱炭素社会実現が、日本を含めた世界の流れであること

・「脱炭素先行地域」が匠瑳市の活性化、発展にとって重要であること

・「脱炭素先行地域」や脱炭素を活用した地域活性化の事例紹介

○日時と場所

*6月下旬に実施することで準備を進めて行くこととした。具体案として、大潟村から来てもらい、話をしてもらうなどが出た。

4 その他

① 次回協議会 5月24日（火） 13：30 第3委員会室